

学校評価(共通項目)評価書

朝霞市立朝霞第七小学校

柱	No	評価項目	自己評価	自己評価の説明及び学校の考え	関係者評価	学校関係者評価者の説明
学校の組織運営	1	学校は、学校教育目標達成に向けて、全教職員で組織的に取り組んでいる。	A	チーム朝霞七小として「心豊かにたくましく生きる児童の育成」の実現のため、目指す学校像「生き生き学び高め合う学校 一人一人の良さを伸ばす元気な学校」に向けて、教職員一丸となって取り組んできた。コロナ禍においても「学びを止めない」ことを念頭に、感染対策を考慮しながら、様々な教育活動・学校行事を実施することができた。また、教職員のストレスチェックも良好で、働きやすい職場環境(職員室)を構築できている。	A	・毎年、先生方は学校教育目標を達成するべく努力している。コロナ禍で急に予定が変わることもあり、大変さを感じる。 ・協議会に参加した際に詳細な説明がある。 ・個々の教員は頑張っているが学年全体、学校全体という指導が統一されていない。
	2	学校は、安全・安心に配慮し、危機管理体制を整えている。 (※いじめの未然防止と早期発見、再発防止等の組織的な対応を含む)	A	今年度も新型コロナウイルス感染症の流行によって、様々な日程や行事内容の変更が余儀なくされたが、手洗い・マスク着用・換気の徹底等、感染予防に関する指導を徹底し、安心して学習できる環境づくりに努めた。また、日々の安全点検も徹底し、施設設備の維持管理・環境整備も怠ることなく実施できた。加えて、定期的な倫理確立委員会や日常の職員集会等の機会を、教職員の倫理観を高める研修等の充実を図った。	B	・生徒指導案件については組織的かつ迅速に対応してもらいたい。 ・学校内である程度安全かと思うが、登下校中や刃物持ち込みなど安心できないニュースもあるので保護者の協力は不可欠である。 ・不審者対応避難訓練、ショート避難訓練等児童の危機意識を高める活動を多く取り入れている。
基礎学力の定着	3	児童生徒は、教職員の指導により、基礎学力を身に付けている。	A	今年度の埼玉県学力・学習状況調査における県と本校の正答率に関する平均比は、〈国語〉4年+7.0、5年+6.0、6年+7.3、〈算数〉4年+5.5、5年+4.8、6年+4.5と大きく上回る結果を出すことができた。基礎基本の定着と思考力・判断力・表現力を伸ばす授業を実践することで、上記の結果に繋げることができたと考えられる。また、今年度より導入されたタブレット端末の積極的な活用を推進し、校内研修の「プログラミング教育」に関する取組も充実させることができた。	A	・担任が交代することで、児童、保護者が不安を感じていた学級があった。 ・全国学力・学習状況調査よりしっかりと学力がついていることがわかる。 ・七小児童は毎年、国や県の学力・学習状況調査で国で平均を超える学力を有しているのでそのまま継続して指導してほしい。
	4	学校は、学力向上をめざし、児童生徒の実態に基づいて授業改善に努めている。	A	埼玉県の学力・学習状況調査の結果を細かく分析し、各学年において、綿密な実態把握(国語:熟語や同音異義語等の言語に関する知識・技能、算数:データの活用)と課題解決に向けた方策を検討し、計画的に実践してきた。さらに、タブレット端末を用いた県のコパトシートの活用(高学年)等、ICT機器の利活用も積極的に推進した。加えて、各家庭にも教育活動への理解と協力を得るため、保護者用シラバス(教育計画)を全家庭に配付した。	B	・学年内で指導法に違いがある。 ・児童、各家庭の学習力向上に寄せる思い等差が大きいであろう中、先生方は健闘しているといえる。
規律ある態度の育成	5	児童生徒は、生活のルールに基づき、発達段階に応じた「規律ある態度」を身に付けている。	A	「七小よい子のやくそく」を基に、学習規律の確立に努めた。児童へのきめ細やかな指導や配慮を要する児童に対する指導を充実させるため、低学年補助教員・スクールサポーター・児童生徒支援員を配置し、学習に関する様々な支援を行った。また、今年度より導入された一人一台のタブレット端末に関する使用ルール「七小 iPadの約束」も作成し、情報モラル等の教育についても指導を行った。	B	・声を出さない、距離をとる生活の中で難しくなっているとは言え、あいさつができない子が増えている。 ・七小へ来た際には必ず児童数名から元気な挨拶を受ける。 ・コロナ禍により、学校そのものの様子を拝見する機会が少なく、変わらず指導をしてもらっていると思う。
	6	学校は、児童生徒の実態把握に基づき、規律ある態度の指導の工夫・改善に努めている。	A	校内の生徒指導部において、挨拶の充実、廊下歩行の徹底等、組織的・計画的に指導を行っている。県施策「規律ある態度の育成」の効果の検証では、目標80%に対し、全校での達成率は82.8%であった。また、運営委員や代表委員が主体となり「朝のあいさつ運動」にも取り組む、学校課題である「あいさつ」の充実にも全校で力を入れてきた。一方で、学習準備については、全校の達成率が79.5%と大きく課題が残った。次年度に向け、改善できるよう組織的に取り組んでいきたい。	B	・場面に基づいた規律ある態度の指導工夫は大人も必要で難しいと思うが改善してほしい。 ・どちらかと言えば家庭の問題ではあるが、あいさつ等がしっかりできる学校もあるにはあるので、努力してほしい。
健康・体力向上	7	児童生徒は、体育の授業や運動部活動、外遊び等の運動に意欲的に取り組んでいる。	A	ソーシャルディスタンスの確保等、感染症対策における運動制限が生じる中、年間指導計画に空きが出ないように実施時期や方法を変更し、対応してきた。また、運動会や持久走記録会に関しても開催方法を変更する等、体育的行事も中止することなく実施できた。一方で、日頃の外遊びの減少が課題として挙がっており、次年度に向けて、運動する機会を増やす取組を推進していきたい。	A	・外遊びが嫌いな児童もいるので、そのところは自由があってもいいのではないかと思う。 ・外から見る限りは昼休み等盛んに外遊び等を見ることができた。 ・時間走記録会等から意欲的に取り組んでいると言える。 ・大人数で遊ぶことが難しいのか外で遊んでいる児童は少ないと感じる。
	8	学校は、児童生徒の体力を高めるため、意図的に向上策を講じている。	A	家庭で取り組む体力カードや体育授業でのタブレット端末のアンケート機能の活用、児童の意欲を高める資料を作成し、体育における七小スタンダードの確立と浸透に向けて動んできた。若手教員の鍛錬教室や器械運動教室の実施や水泳指導における安全対策等、指導技術の共有も進めている。一方で、今年度の新体力テストA+B+Cの割合が少し低下しており、体力向上が大きな課題として残った。コロナ禍においても意欲的に体を動かす児童の育成を目指し、次年度も組織的に取り組んでいきたい。	A	・林間学校の登山の様子から体力向上のために意図的に策を講じていると言える。 ・夏休みの水泳指導がなくなり、さらに体力を高める授業がないのが残念。1年を通して対策してほしい。
連携	9	学校は、保護者や地域と連携し、その教育力を学力や体力の向上に生かしている。	A	新型コロナウイルスの感染が落ち着いた状況を見定め、保護者による2年生生活科見学引率サポート、市福祉協議会による福祉(車いす・アイマスク)の体験的学習、3年社会の博物館見学等、様々な立場・団体と連携・協力をし、教育活動を進めることができた。しかし、感染拡大に伴い、例年取り組んできた幼稚園や地域の高齢者の方々との交流や体験活動は実施できなかった。次年度も感染の状況を注視しながら、活動を充実させていきたい。	B	・PTAとしては連携をしている感じがしない。どちらかと言えば、家庭側が学校におまかせという意識が強い。 ・学校経営方針等からしっかりと考えを伝えてもらっている。 ・コロナ禍である現在では十分に協力し合っている。 ・保護者と連携がよく取れている。
	10	保護者や地域は、学校と協力し合い、児童生徒の安全指導・健全育成を推進している。	A	感染状況が落ち着いた時期が続き、学校公開が中止となるなど、保護者の来校機会が減少した。一方で、オンライン授業や懇談会の動画配信など、例年と異なる形式で学校の教育活動を保護者に参観してもらう機会を作ることができた。また、PTAとは除草作業や落ち葉掃き等の環境整備、地域パトロール等の防犯活動、資源回収のリサイクル活動で連携して取り組むことができた。さらに、学校応援団の協力を仰ぎ、安全が保てるよう樹木の伐採に取り組み、校内環境を整備することができた。今後も状況を確かめながら、活動を充実させていきたい。	B	・コロナ禍で地域とのつながりはさらに薄くなっていると感じる。 ・在校児童の保護者だけでもっと学校と関わりをもてるように協力してほしい。 ・毎月の七小だよりを読むと、育成ができていていると思う。 ・保護者代表であるPTAが過渡期であり、在り方そのものの検証を行政が主体となって行うことが優先。連携の考察はその後ではないか。 ・一部の保護者や地域だけでなく、地域性があるのかもれないが、保護者皆がというにはほどよい。

注:「自己評価」及び「関係者評価」の欄はA~Dで記入

Aは4点、Bは3点、Cは2点、Dは1点で換算した平均値から、A:3.4以上、B:2.6以上、C:2.0以上、D:2.0未満